

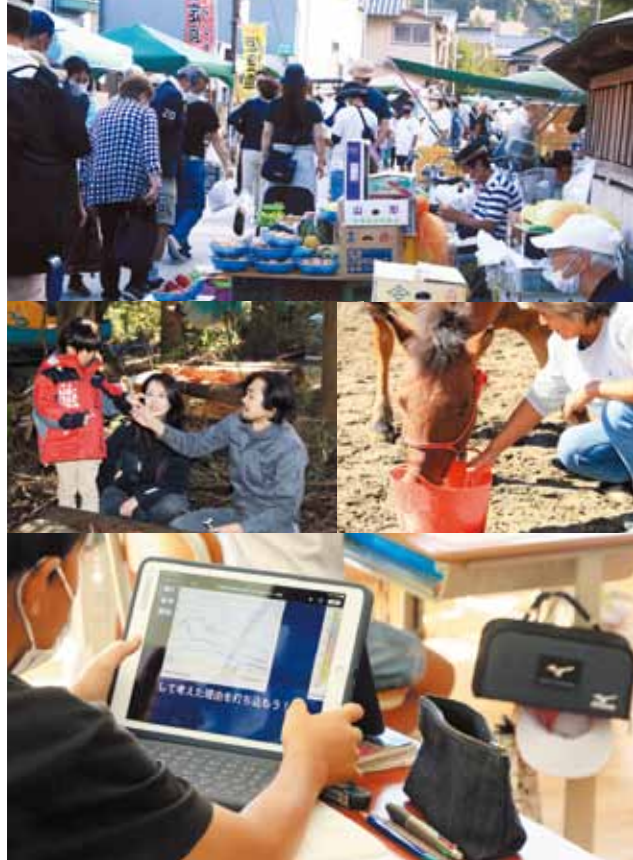
勝浦市 総合計画

令和5年度(2023年度)～令和16年度(2034年度)



勝浦カッピー

“豊かな自然”に抱かれて
“心豊か”に過ごせるまち
かつうら





勝浦市民憲章

美しい自然、住みよいまち、人を思う心、
私たち勝浦市民は、この勝浦に誇りをもち
未来への希望と限りない発展を求めて、
ここに市民憲章を定めます。

- 1 私たちは、海と緑の自然を大切にします。
- 1 私たちは、心と心のふれあいを大切にします。
- 1 私たちは、明るく健康な家庭をつくれます。
- 1 私たちは、きまりを守り、安心して住めるまちをつくれます。
- 1 私たちは、古き良き伝統を守り、次の世代につたえます。



はじめに

勝浦市では、総合計画を道標に、長い年月にわたり積み重ねてきた「自然 文化 伝統」という誇るべき資源を、次世代に誇りを持って引き継ぐため、市民一人ひとりの「勝浦への想い」をかたちにすべく、まちづくりを進めています。

この度、新たに令和5年度を初年度とする「勝浦市総合計画」を策定いたしました。

本市が抱える課題に効率的・効果的に取り組んでいくためには、限られた資源・財源を重点的に配分する事業を見極め、実施していくことが重要です。

新たな総合計画では、私自身が市長として目標としています「安心して産み、育ち、暮らせる環境の実現」を目指し、「子どもの未来を拓く」「豊かな自然を活かす」「住みよさを実感できるまちづくり」の3つの方針のもと、計画最終年度である令和16年度に目指すべき将来都市像を・・・

“豊かな自然”に抱かれて “心豊か”に過ごせるまち かつうら

と定め、その実現に向けて、さまざまな施策展開を図ってまいります。

結びに、本計画策定にご尽力・ご協力いただきました全ての方々に改めまして御礼申し上げますと共に、今後とも、より一層のご支援・ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

令和5年3月 勝浦市長 照川 由美子



序 論

第1章 総合計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨	8
第2節 計画の性格・位置づけ	8
第3節 計画の構成・期間	9

第2章 勝浦市のすがた

第1節 位置・地勢・気候	10
第2節 沿革	11
第3節 人口	12
第4節 就業・産業	15
第5節 財政	16
第6節 本市の特性	19

第3章 まちづくりの課題

第1節 時代の潮流	21
第2節 市民のニーズ	24
第3節 まちづくりの主要課題	32

基本構想編

第1章 勝浦市が目指す将来のすがた

第1節 将来都市像	38
第2節 まちづくりの理念	39
第3節 将来人口の見通し	40
第4節 土地利用の方向性	41

第2章 将来都市像の実現に向けた施策の大綱

.....	42
-------	----

前期基本計画

I. 総論

第1章 基本計画の概要

第1節 基本計画の位置づけ	50
第2節 基本計画の構成と計画期間	50
第3節 基本計画の進行管理と評価	50
第4節 SDGsとの連動	51

第2章 人口推計

.....	54
-------	----

第3章 施策の体系

.....	56
-------	----

第4章 リーディングプロジェクト

第1節 リーディングプロジェクトとは	58
第2節 リーディングプロジェクトの概要	58
第3節 リーディングプロジェクト	59

II. 施策分野別計画

基本方針1 未来に希望をつなげるまち

.....	66
-------	----

基本方針2 とともに支え合い、健やかに過ごせるまち

.....	80
-------	----

基本方針3 安全・安心を実感できるまち

.....	94
-------	----

基本方針4 人々が活気にあふれるまち

.....	102
-------	-----

基本方針5 快適な環境で過ごせるまち

.....	120
-------	-----

基本方針6 心豊かで元気になれるまち

.....	134
-------	-----

基本方針7 みんなで創るみんなのまち

.....	142
-------	-----

III. 地区別計画

第1章 地区別計画の概要

第1節 地区別計画策定の趣旨	154
第2節 地区別計画の構成	154
第3節 地区の設定	155

資料編	166
-----------	-----



序 論

第1章 総合計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨	8
第2節 計画の性格・位置づけ	8
第3節 計画の構成・期間	9

第2章 勝浦市のすがた

第1節 位置・地勢・気候	10
第2節 沿革	11
第3節 人口	12
第4節 就業・産業	15
第5節 財政	16
第6節 本市の特性	19

第3章 まちづくりの課題

第1節 時代の潮流	21
第2節 市民のニーズ	24
第3節 まちづくりの主要課題	32

序論

第1章 総合計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨

勝浦市では、平成23年度（2011年度）から令和4年度（2022年度）までの12年間を計画期間とする総合計画に掲げた将来都市像「海と緑と人がともに歩むまち“元気いっぱい かつうら”」の実現に向け、積極的なまちづくりを進めてきました。

この間、人口減少と少子高齢化の進行、大規模な自然災害の発生、新型コロナウイルスの感染拡大、ＩＣＴ（情報通信技術）に代表される先端技術の急速な発展など、私たちを取り巻く環境は大きく変化してきました。こうしたなかで、市民のニーズや価値観、地域が抱える課題も多様化、複雑化し、行政には、これまで以上に多様できめ細かな対応が求められています。

このような激しい環境の変化に対応し、持続可能なまちづくりを進めていくため、市民と行政がこれからの新しい時代の目標を共有し、信頼関係を構築しながら魅力あるまちづくりを進めるための指針として本計画を策定しました。

第2節 計画の性格・位置づけ

本計画は、次のような性格・位置づけを持っています。

(1) まちづくりの最上位計画

総合計画は市政全般にわたる総合的な計画として、市の計画のなかでも最上位に位置づけられ、本市のまちづくりの指針となるものです。

(2) 市民と行政が共有する目標

本計画は、市民と行政が協働してまちづくりを進めていくにあたり、共通の目標としての役割を担うものです。

第3節 計画の構成・期間

本計画は、「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」をもって構成します。

基本構想

基本構想は、時代の潮流やまちづくりの課題などを踏まえ、まちづくりの基本理念や市の将来都市像を示すとともに、それを実現するために必要な施策の大綱を明らかにするものです。

計画期間は、長期的な視点に立ったまちづくりを進めるために、令和 5 年度（2023 年度）を初年度とし、令和 16 年度（2034 年度）までの 12 年間とします。

基本計画

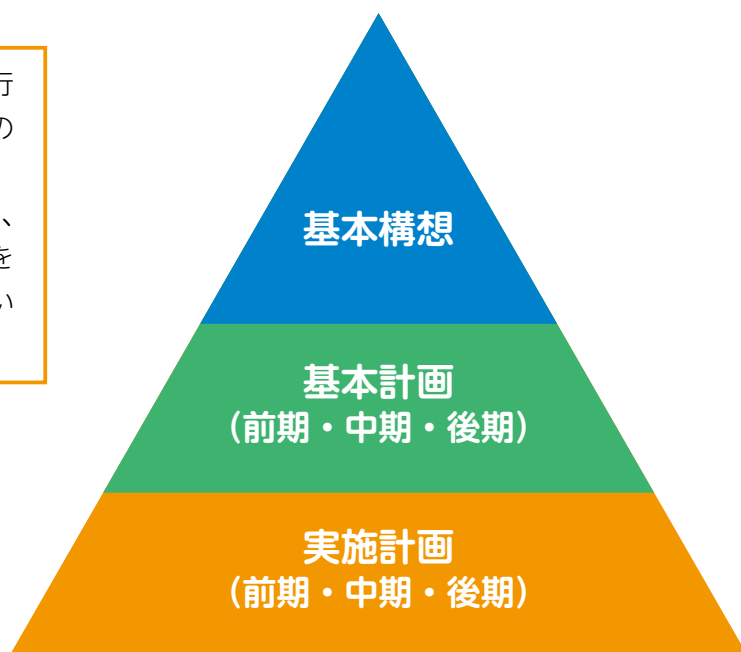
基本計画は、基本構想に掲げる市の将来都市像を実現するために、基本構想に従って具体的な施策を定めるとともに、それらを推進するための指針となるものです。

計画期間は、変化が激しい社会経済情勢や本市の財政状況などに対応し、実行性の高い計画とするため、基本構想期間の 12 年間を前期・中期・後期に分け、それぞれ 4 年間とします。

実施計画

実施計画は、基本計画で定めた施策を実行するための具体的な事業を示し、予算編成の指針となるものです。

計画期間は基本計画に合わせ 4 年間とし、社会経済情勢の変化や本市の財政状況などを反映させるため、必要に応じて見直しを行います。



■総合計画の期間

令和	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
西暦	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
基本構想	基本構想 (12 年間)											
基本計画	前期基本計画 (4 年間)				中期基本計画 (4 年間)				後期基本計画 (4 年間)			
実施計画	前期実施計画 (4 年間)				中期実施計画 (4 年間)				後期実施計画 (4 年間)			

第2章 勝浦市のすがた

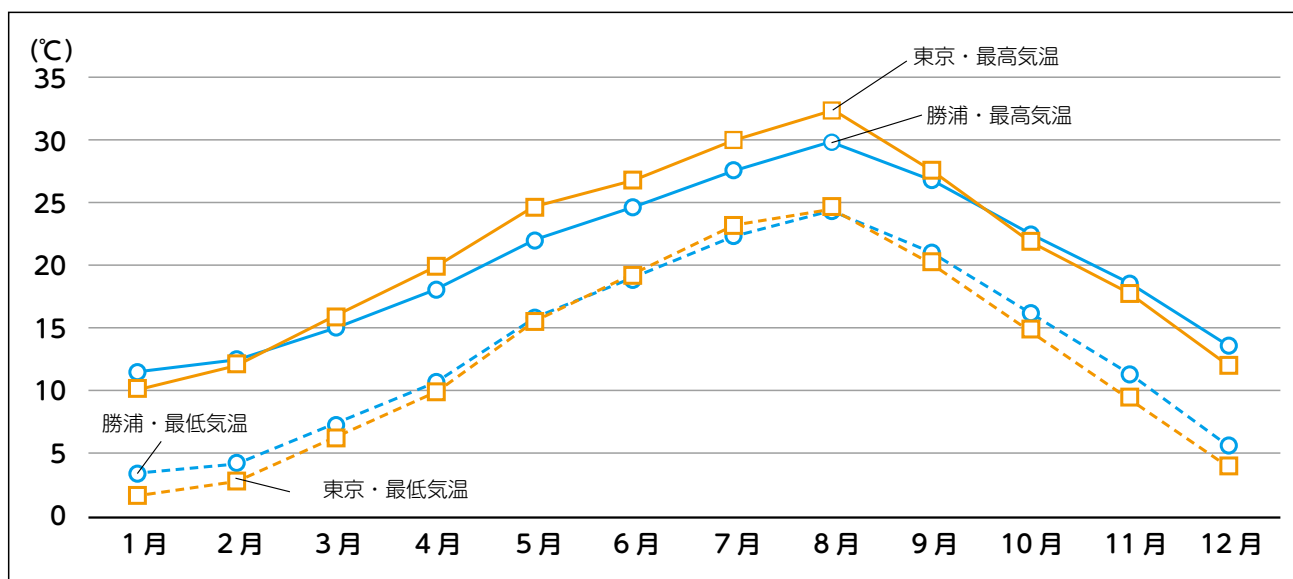
第1節 位置・地勢・気候

本市は、千葉県の南東部、千葉市から南へ約 50 km、都心から約 75 km 圏内に位置し、西は鴨川市、北西から北は大多喜町、北東はいすみ市、東は御宿町にそれぞれ隣接しています。内陸部は海拔 150 m～250 m の緑豊かな房総丘陵が広がり、市域の 3 分の 2 を丘陵地が占め、平坦地が少ない地形です。一方、市の南部は黒潮が北上する太平洋に面し、海岸線は変化に富むリアス式海岸や「日本の渚百選」に選ばれた鵜原・守谷海岸をはじめとした美しい砂浜など、素晴らしい景観に恵まれています。

鉄道はJR外房線が海岸沿いに東西方向に走り、市内には勝浦駅、鵜原駅、上総興津駅、行川アイランド駅の 4 駅が設置されています。幹線道路は、国道 128 号が海岸沿いを東西方向に連絡し、南北方向に大多喜町を經由して千葉方面まで結ぶ国道 297 号と市の中心部で交差しています。

本市の気候は黒潮暖流の影響を受けて温暖湿潤な海岸気候の特性を呈し、年間平均気温は 15 度を超える一方、夏季に日中の最高気温が 35 度を超える猛暑日を記録した日が観測史上一度もなく、年間を通じて過ごしやすく居住性に優れています。

■勝浦・東京の月別平均気温（2017 年～2021 年）



■勝浦・東京における猛暑日・真夏日・熱帯夜・冬日の日数

			2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
猛暑日	最高気温が 35℃以上の日	勝 浦	0	0	0	0	0
		東 京	2	12	12	12	2
真夏日	最高気温が 30℃以上の日	勝 浦	28	31	24	33	22
		東 京	51	68	55	54	52
熱帯夜	最低気温が 25℃以上の日	勝 浦	13	31	16	18	11
		東 京	18	42	28	27	19
冬 日	最低気温が 0℃未満の日	勝 浦	8	11	0	1	4
		東 京	9	22	7	6	14

（資料）気象庁「過去の気象データ」

第2節 沿革

明治 22 年（1889 年）に町村制の施行により勝浦村・豊浜村・清海村・上野村・総野村が生まれました。

勝浦村は明治 23 年（1890 年）に勝浦町に、清海村は大正 10 年（1921 年）に興津町となり、昭和 12 年（1937 年）4 月 1 日に勝浦町は豊浜村と合併しました。

昭和 28 年（1953 年）の町村合併促進法に基づき、同 30 年（1955 年）2 月 11 日に、勝浦町、興津町、上野村、総野村の 4 町村が合併して勝浦町が誕生し、昭和 33 年（1958 年）10 月 1 日に市制施行により、千葉県内 18 番目の市として勝浦市が誕生しました。

勝浦地区は江戸時代以降、城下町、漁業のまちとして栄え、天正の時代から 400 年以上にわたり市民の台所として日常の生活にとけ込んできた勝浦朝市は、勝浦を代表する名所として多くの方に親しまれています。



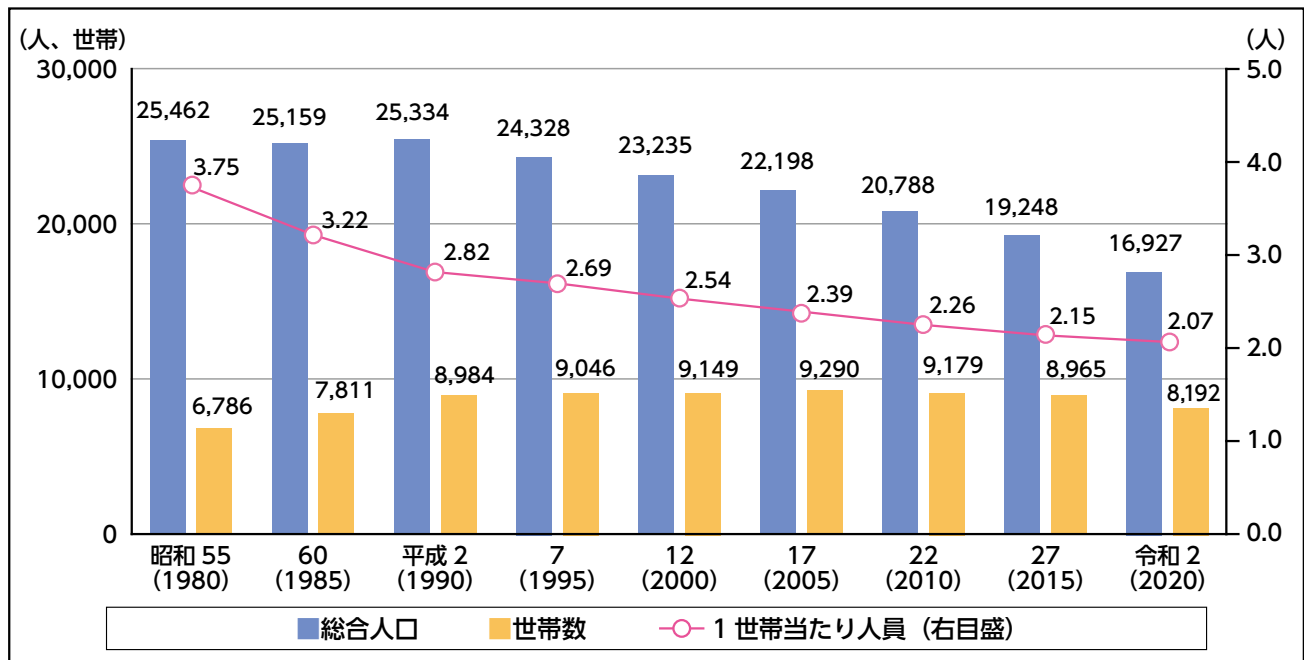
第3節 人口

(1) 総人口と世帯数

本市の人口は減少傾向が続いており、国勢調査では昭和55年(1980年)の25,462人から令和2年(2020年)には16,927人と33.5%の減少となっています。

本市の世帯数は平成17年(2005年)の9,290世帯をピークに減少し、令和2年(2020年)は8,192世帯となっています。1世帯あたり人員は昭和55年(1980年)の3.75人から令和2年(2020年)には2.07人にまで減少しています。

■総人口・世帯数等の推移



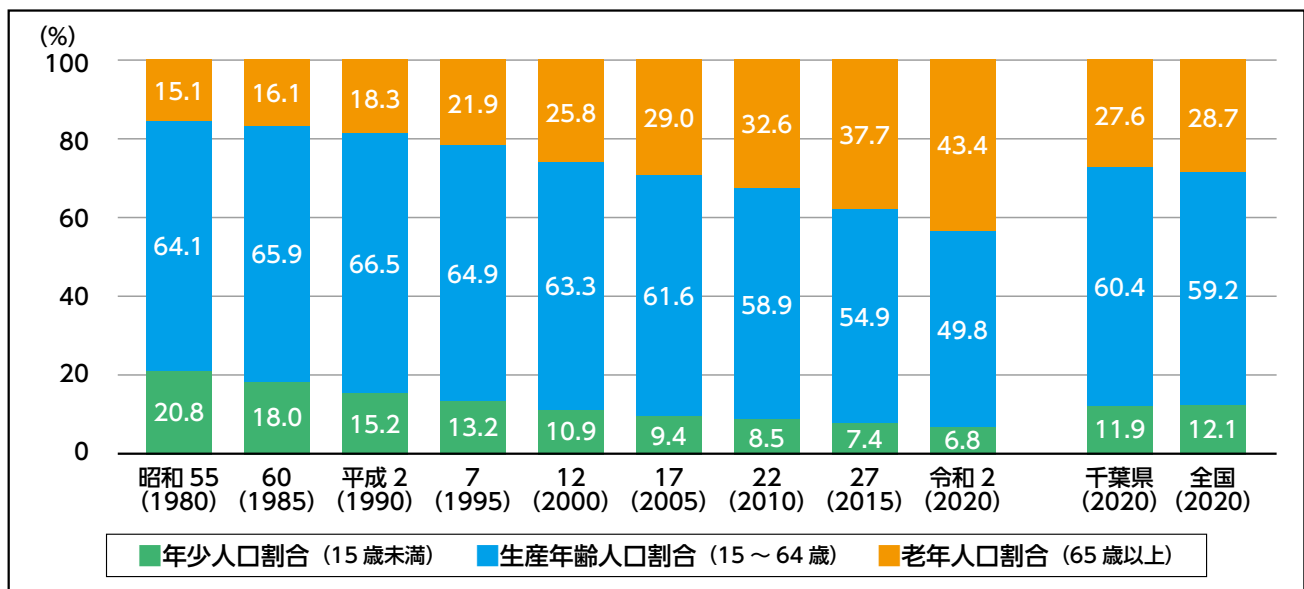
(資料) 国勢調査

(2) 年齢3区分別人口構成比

年齢3区分別の人口構成比の推移をみると、年少人口は昭和55年(1980年)から低下を続け、生産年齢人口も平成2年(1990年)をピークに低下に転じた一方、老年人口の構成比は上昇し続けています。

令和2年(2020年)における老年人口の構成比は千葉県、全国と比較して高い水準となっています。

■年齢3区分別人口推移



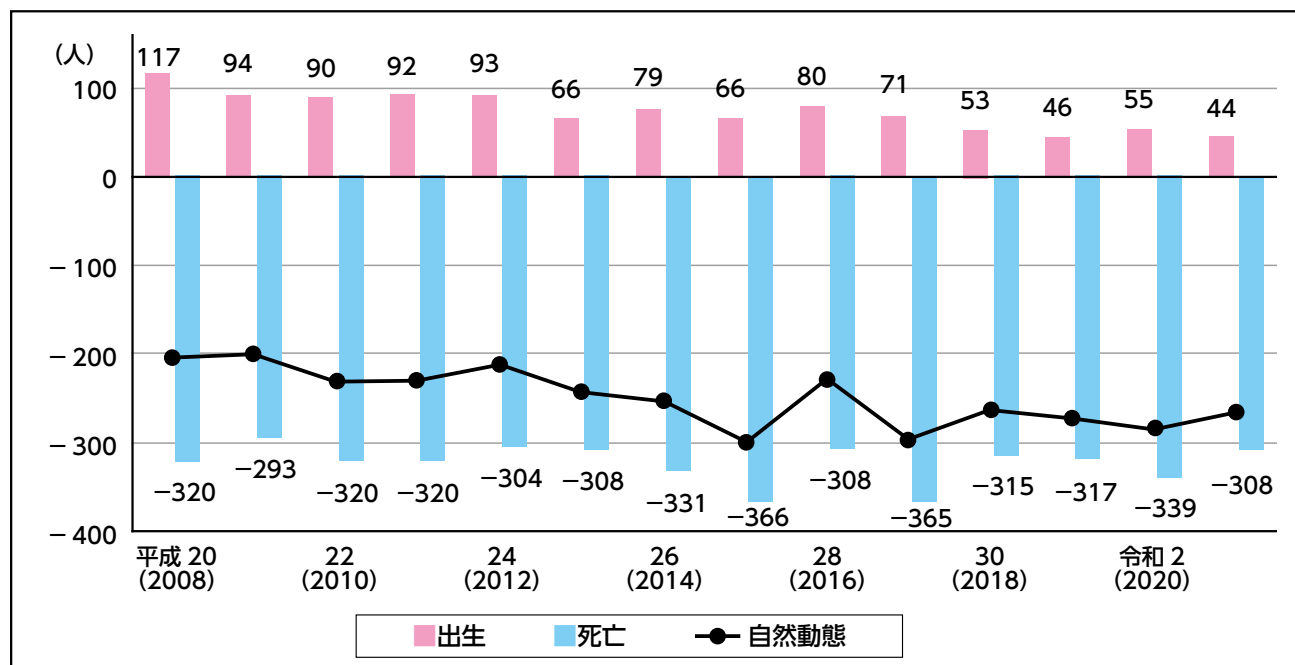
(資料) 国勢調査

(3) 自然動態

出生数は近年、減少傾向が顕著となっています。令和3年（2021年）は44人となり、平成20年（2008年）の半分以下の水準にとどまりました。一方、年間の死亡数は概ね300～350人で推移しています。

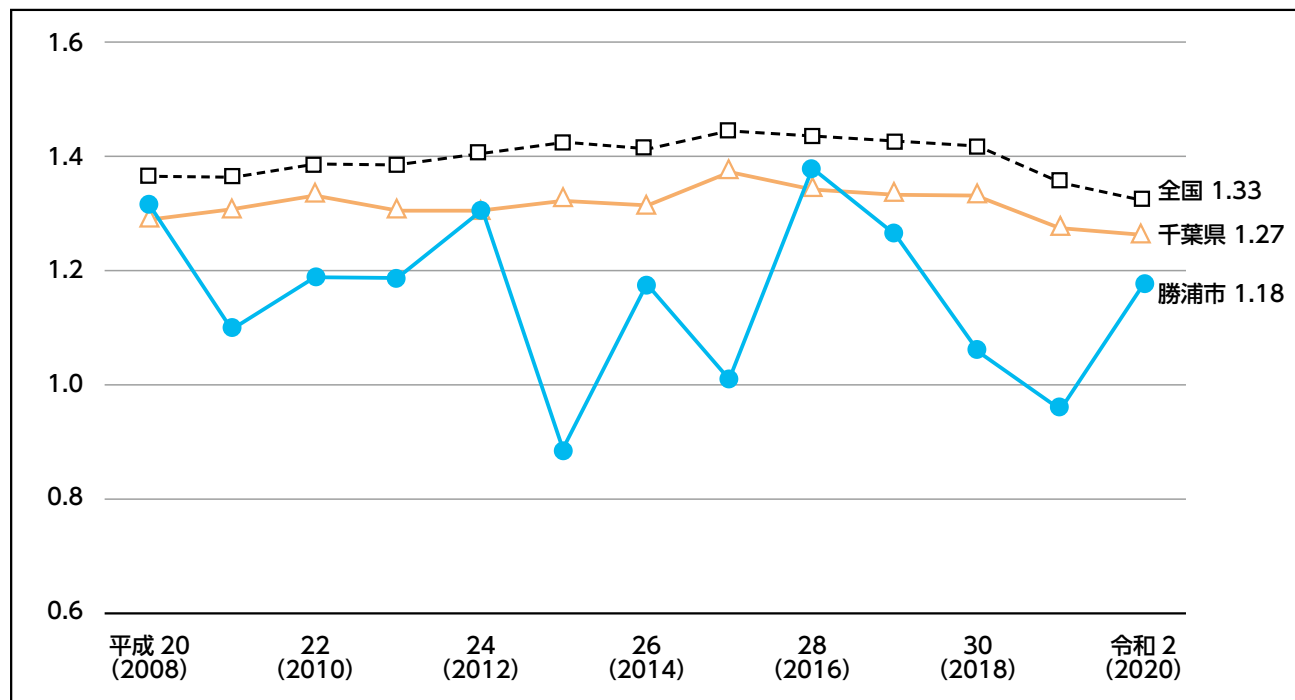
1人の女性が一生の間に産む子どもの人数とされる「合計特殊出生率」の推移をみると、ばらつきがあるものの、概ね全国、千葉県よりも低い水準で推移しています。

■出生数・死亡数の推移



(資料) 千葉県「毎月常住人口調査報告書」

■合計特殊出生率の推移

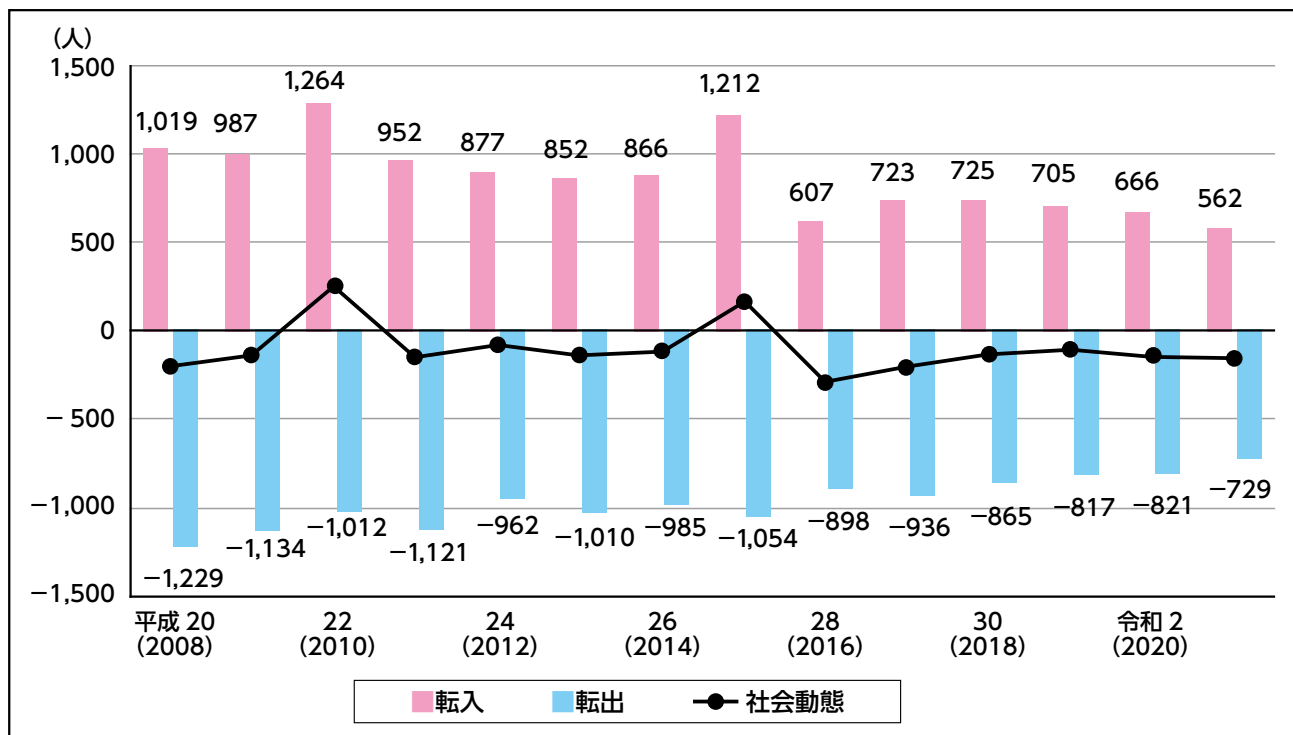


(資料) 千葉県「合計特殊出生率の推移」

(4) 社会動態

転入数、転出数の推移をみると、平成 28 年（2016 年）以降、転出数が転入数を上回り、「社会減」の状態が続いています。

■転入数・転出数の推移

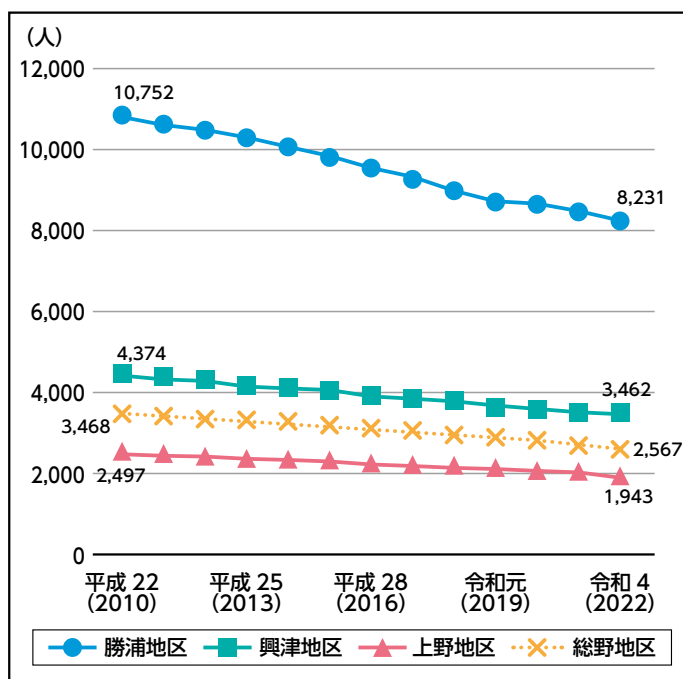


(資料) 千葉県「毎月常住人口調査報告書」

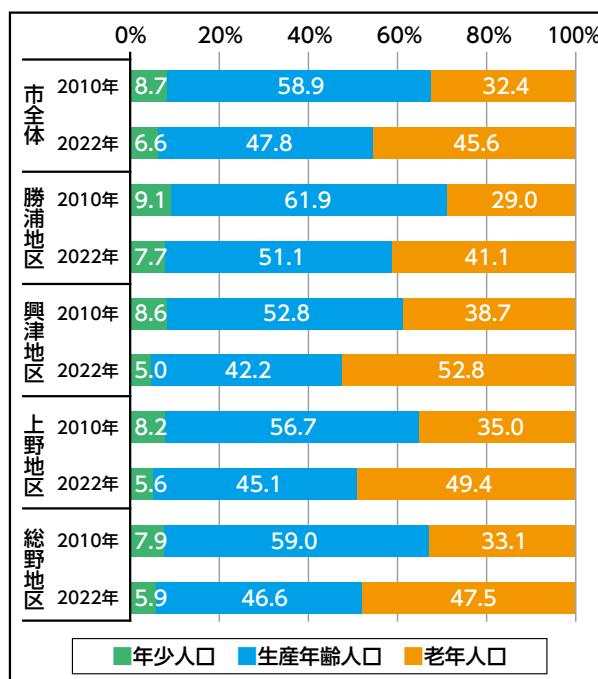
(5) 地区別の動向

すべての地区で人口の減少が続いているなか、勝浦地区は他地区に比べて速いペースで減少しています。年齢 3 区分別の割合をみると、令和 4 年（2022 年）は勝浦地区を除く 3 地区で市全体よりも高齢者の割合が高くなっています。

■地区別人口の推移



■地区別人口の年齢 3 区分別割合変化



(資料) 千葉県「年齢別・町丁字別人口」

第4節 就業・産業

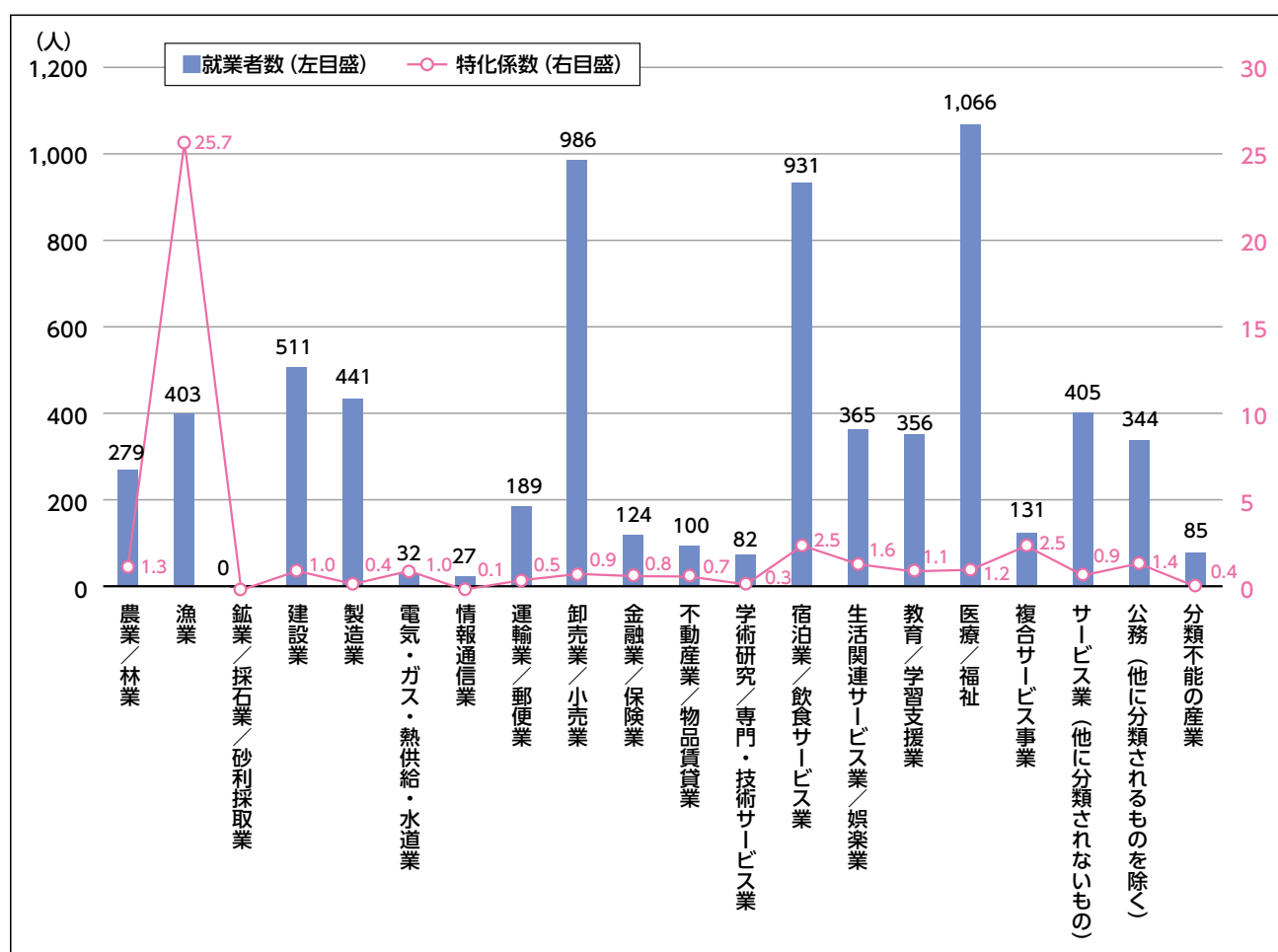
(1) 産業別就業者数

本市を従業地とする就業者数を産業大分類別にみると、「医療・福祉」が1,066人で最も多く、「卸売業・小売業」(986人)、「宿泊業・飲食サービス業」(931人)の順に続いています。

構成比の特徴をみるために、全国と比較した特化係数※(本市のX産業の就業者比率/全国のX産業の就業者比率)をみると、「漁業」が25.7で際立って高いほか、「宿泊業・飲食サービス業」(2.5)と「複合サービス事業」(2.5)も高い水準となっています。

※特化係数が1以上の場合、全国と比べてその産業の就業者の比率が高いので、当該産業に特化していると考えられます。

■勝浦市を従業地とする産業大分類別就業者数と特化係数(2020年)



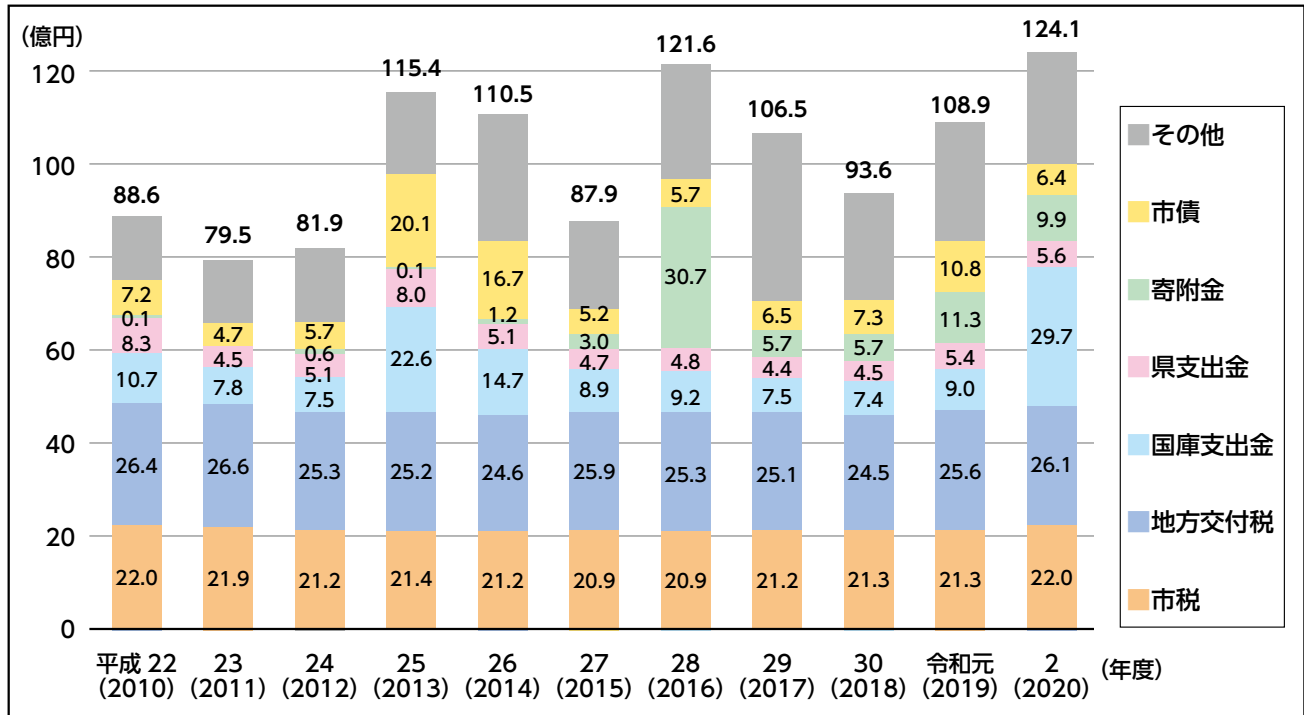
(資料) 国勢調査

第5節 財政

(1) 歳入と歳出の推移

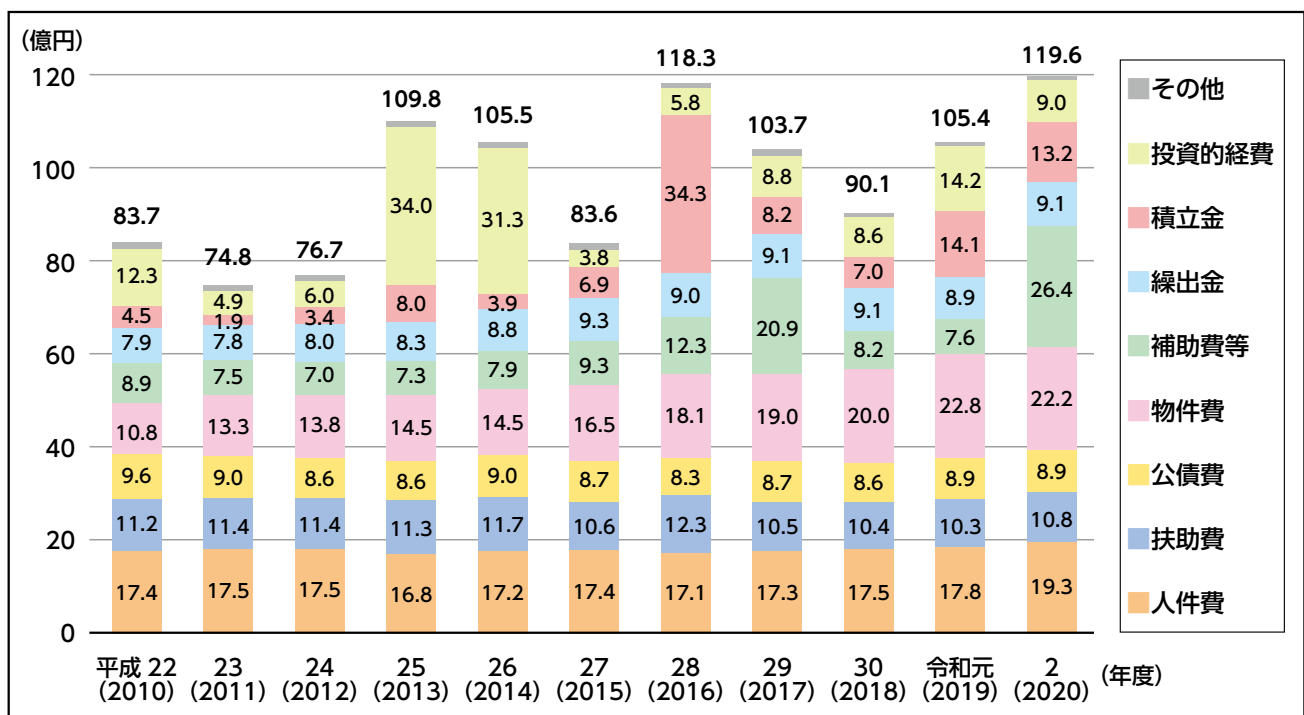
本市の歳入額・歳出額は概ね80億円から120億円の範囲で推移しています。歳入では、市税が21億～22億円程度と横這いで推移する一方、近年、ふるさと納税を主体とした寄附金の存在感が大きくなっています。歳出では、人件費、扶助費、公債費が概ね横這いで推移する一方、物件費が増加傾向にあります。

■普通会計歳入決算額の推移



(資料) 総務省「決算カード」

■普通会計歳出決算額の推移



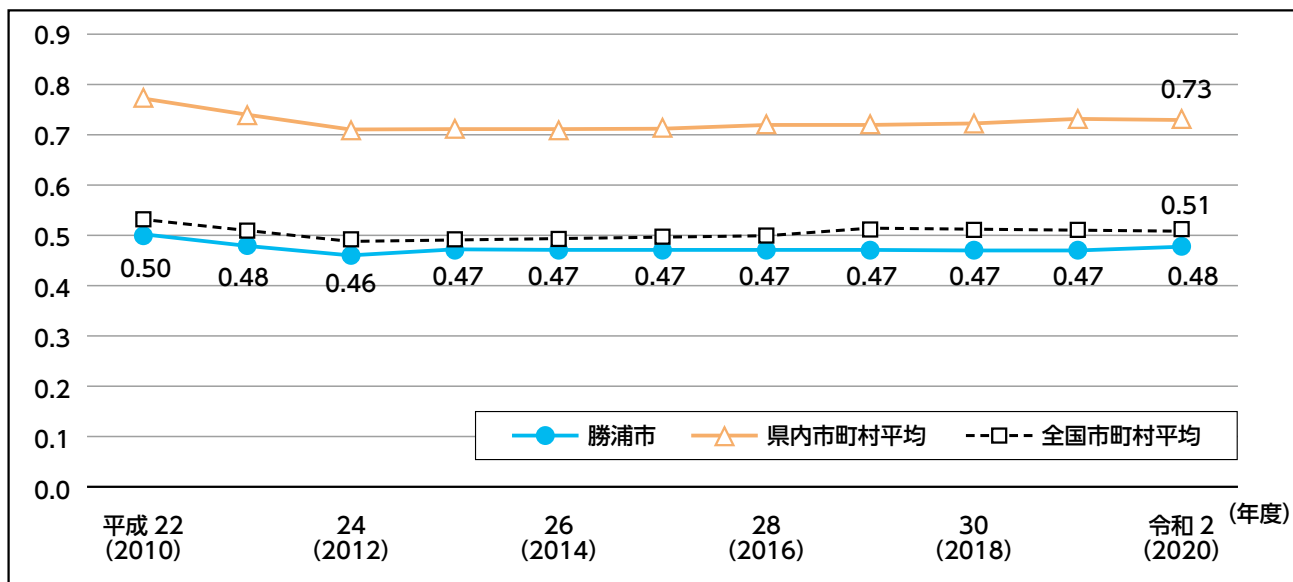
(資料) 総務省「決算カード」

(2) 財政指標

① 財政力指数

財政力指数は地方公共団体の財政力を示す指数で、数値が高いほど財源に余裕があるといえます。本市の財政力指数は県内平均、全国平均を下回って推移しています。

■ 財政力指数の推移

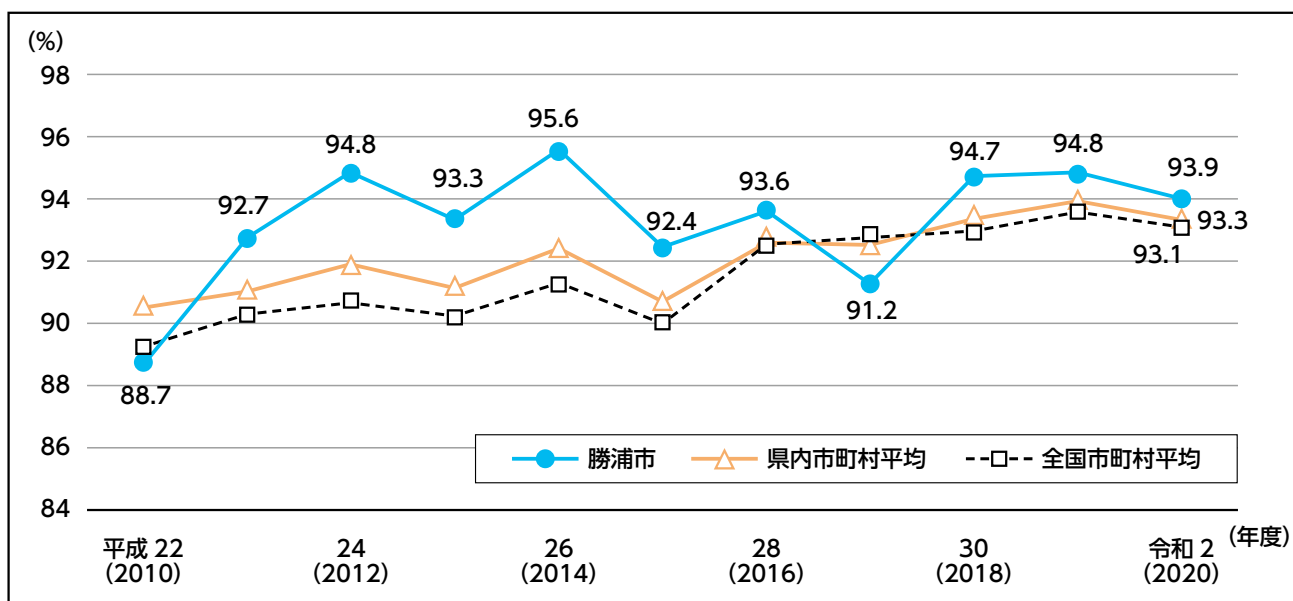


(資料) 総務省「地方公共団体の主要財政指標一覧」

② 経常収支比率

経常収支比率は毎年度経常的に収入される一般財源のうち毎年度経常的に支出される経費（人件費、扶助費、公債費等）に充当される割合で、数値が低いほど財政の弾力性が高いといえます。本市の経常収支比率は県内平均及び全国平均を概ね上回って推移しています。

■ 経常収支比率の推移

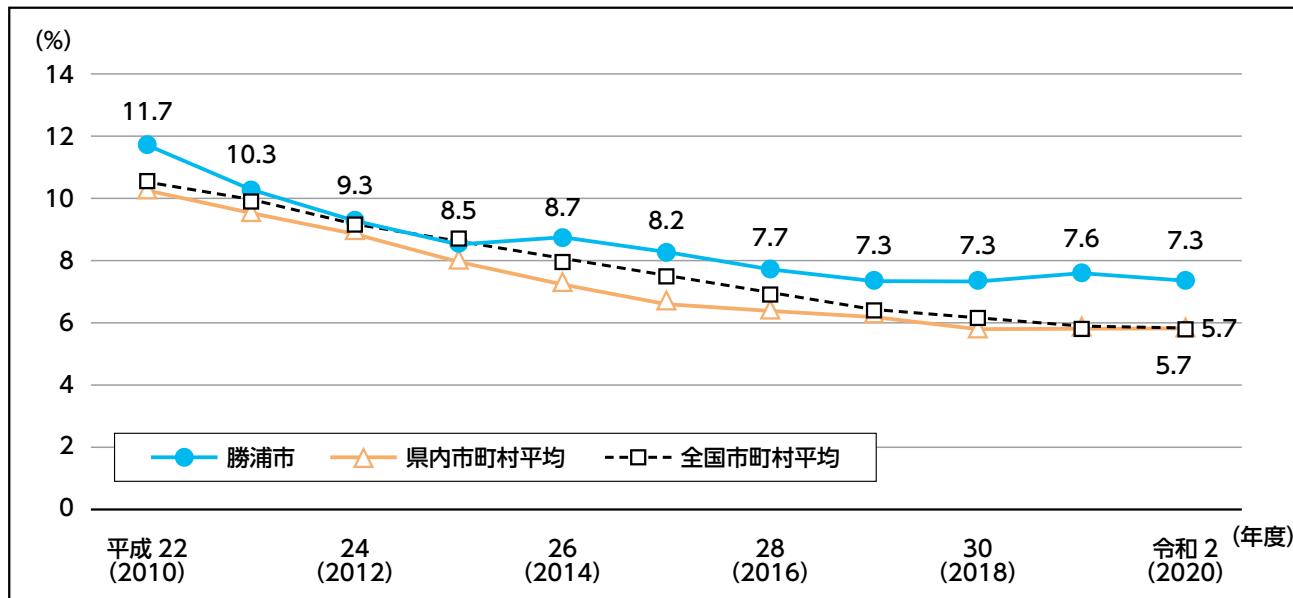


(資料) 総務省「地方公共団体の主要財政指標一覧」

③実質公債費比率

実質公債費比率は自治体の財政規模に対する起債（借金）の返済額の割合で、数値が高いほど返済負担が大きいといえます。近年の本市の実質公債費比率は低下基調にあり、早期健全化基準である25%を下回って推移しています。

■実質公債費比率の推移

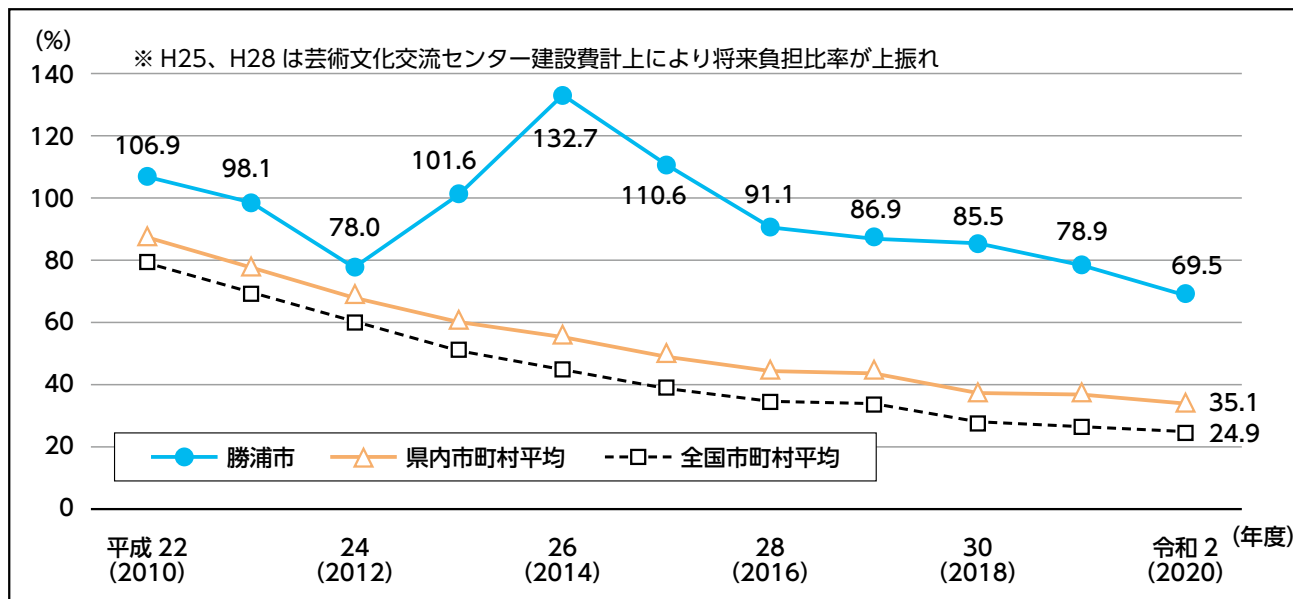


(資料) 総務省「地方公共団体の主要財政指標一覧」

④将来負担比率

将来負担比率は自治体の財政規模に対する現在抱えている負債の割合で、数値が大きいほど将来の財政を圧迫する可能性が高いといえます。近年の本市の将来負担比率は低下基調にありますが、県内平均や全国平均を上回って推移しています。

■将来負担比率の推移



(資料) 総務省「地方公共団体の主要財政指標一覧」

第6節 本市の特性

今後のまちづくりに活かしていくべき本市の主要な特性をまとめると次のとおりです。

(1) 豊かな自然と温暖な気候に恵まれたまち

本市は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれたまちです。市域の約3分の2を占める丘陵性山地には、人々の農的営みが創り出す里山景観が広がっています。また、市民まちづくりアンケートにおいて勝浦市の誇り・宝ものとして最も多くの人から支持された“海”は、変化に富むリアス式海岸の壮大な景観や、「日本の渚百選」に認定された鵜原・守谷海岸をはじめとした美しい砂浜が連なり、多くの市民や観光客が訪れることでまちにぎわいをもたらしています。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響などにより、都心部より地方への移住や「ワーケーション」※への関心が高まるなか、1年を通じて過ごしやすい気候に恵まれていることから、本市を移住先や「ワーケーション」の候補地として考える人も増加しています。

※仕事（ワーク）と休暇バケーションを組み合わせた造語で、テレワークの活用等によりリゾート地など普段の職場とは異なる場所で仕事をしつつ、仕事以外の時間にその地域ならではの活動を楽しむこと。

(2) 漁業の盛んなまち

本市は漁師町として栄えてきた長い歴史を有しています。市中心部に位置する勝浦漁港は全国一の漁獲量を誇る銚子漁港に次いで県内第2位の漁獲量を誇っています。

勝浦のブランドとして定着しているカツオや、近年はその品質の高さが評価され全国各地から注文を受けるまでになったキンメダイなど、新鮮な海の幸が市民や観光客の人気を集めています。また、千葉県で最初の栽培漁業センター（現千葉県水産総合研究センター種苗生産研究所勝浦生産開発室）が設置され、作り育てる漁業に早くから取り組むとともに、漁協などがアワビやキンメダイの資源管理を行うなど持続可能な産業の維持に努めています。

(3) 歴史と文化が大切にされているまち

豊かな海の幸や山の幸を提供してくれる勝浦朝市は江戸時代初期からおおよそ430年の歴史を有しています。出店者を含む多くの関係者に支えられて続いてきた朝市に、今では多くの観光客が来訪し、まちを代表する観光スポットとなっています。また、江戸時代創業の酒造会社2社が伝統の技術をもって提供する日本酒は全国レベルで高い評価を受けています。

温暖な気候であることから、古くから別荘地・避暑地として脚光を浴びていたことで、多くの歌人・詩人・小説家が勝浦市を訪れています。彼らが自然に抱かれた勝浦の美しさに感動し、歌詩を詠んだり、小説の舞台にとりあげ、勝浦の魅力を広く伝えてくれています。

(4) 観光客が訪れるにぎわいのあるまち

本市は、海や里山などの美しい自然、歴史のある朝市に加え、海中公園や海の博物館等の多彩な施設、「かつうらビッグひな祭り」をはじめとした特徴あるイベントなど、豊富な観光資源を有しています。

また、施設が充実しているホテルから、きめ細かなサービスを提供する旅館、民宿など多様な宿泊施設が立地し、観光客に良質の宿泊サービスを提供しています。

新鮮な山海の幸をはじめとした“食”も勝浦市の重要な観光資源です。今や勝浦を代表するご当地グルメとなった「勝浦タンタンメン」は市内の多くの飲食店で提供されています。

市の主要産業である観光業をさらに活性化するため、令和2年（2020年）10月に（一社）勝浦市観光協会が観光地域づくり法人（DMO）として観光庁に登録されました。このDMOを核として多様な関係者が協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを進めていくことが期待されています。

(5) スポーツやレクリエーションが盛んなまち

本市では、野球、テニス、ゴルフなどの様々なスポーツや、ハイキングなどのレクリエーションを楽しむことができます。同じ外房地域の一宮町において東京オリンピックのサーフィン競技が開催されたことで、サーフィンや「SUP」※をはじめとしたマリンスポーツが市内でもさらに盛んになることが期待されています。

また、スポーツ・レクリエーション施設として、テニスコートのほか既存学校施設を活用した体育館等を市民に提供するとともに、数々のスポーツ競技における一流のアスリート、指導者が揃っている国際武道大学や日本武道館研修センターが立地していることにより、多くの市民がスポーツ、健康づくりに積極的に参加しています。

※スタンドアップパドルボード（Stand Up Paddleboard）の略。サーフボードよりも少し大きめの板の上に立ち、パドルを漕ぎながら波乗りしたり海の上を散歩するハワイ発祥のマリンスポーツ。



第3章 まちづくりの課題

第1節 時代の潮流

まちづくりの課題は、地域を取り巻く時代の潮流に伴って大きく変化しており、時代に即した新しい視点が求められています。

まちづくりを進めていくうえで注視すべき時代の潮流は次のとおりです。

(1) 人口減少・少子高齢化の進行

日本の総人口は長期にわたる本格的な減少局面に突入するとともに、団塊の世代が75歳以上となる「2025年問題」が指摘されるなど、世界に前例のない超高齢社会を迎えようとしています。今後、人口減少と少子高齢化が進むことにより、経済・社会活動の縮小や停滞とともに、医療・介護・福祉サービス需要の急増、社会保障費負担の増大、空き家の増加、地域コミュニティの衰退など、様々な場面でその影響が顕在化していくことが懸念されています。

こうした状況に対応するため、今後は様々な立場の市民がまちづくりの担い手として参画し、支え合いながら、人口減少に適応したまちづくりを進めることが求められています。

(2) 安全・安心に対するニーズの高まり

近い将来に発生が予測されている首都直下地震や、近年、激甚化がみられる台風・集中豪雨などの風水害を受け、災害対策への関心が高まっています。また、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、市民の日常生活から地域経済にまで様々な分野に深刻な影響をもたらしました。

加えて、子どもや高齢者を狙った犯罪、悪質な運転による交通事故、インターネットを通じた誹謗中傷、個人情報漏洩など、日常生活の安全を脅かす多様なリスクが存在しています。

こうしたリスクから市民の生命、財産を守り、誰もが安全・安心に暮らし続けることができるよう、市民、地域、行政が相互に連携して取り組んでいくことが求められています。

(3) 持続可能なまちづくり

地球温暖化や海洋プラスチック問題が表面化するなか、世界的に環境保全・気候変動への対策強化に対する意識が高まっています。

平成27年（2015年）の国連サミットにおいて、令和12年（2030年）までの長期的な開発指針として「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、17のゴールと169のターゲットから構成される「SDGs（持続可能な開発目標）」が定められました。また、日本を含む多くの国が2050年までに温室効果ガスの排出を全体として実質的にゼロにする「カーボンニュートラル」を宣言しています。

各自治体においては、再生可能エネルギーの利用、省エネ推進、ごみの発生抑制及び再利用の促進などによる環境負荷軽減に向けた取組とともに、気候変動により将来予想される被害の回避・軽減を図る取組を市民や多様な関係者と協力して進めていく必要があります。

(4) デジタル化の進展

ＩＣＴの飛躍的な発達とスマートフォン等の情報通信機器の普及は日常的意思伝達はもとより、物流、医療・福祉、教育など、あらゆる分野で従来の仕組みに大きな変化をもたらし、「５Ｇ」※１サービスの開始がこうしたデジタル化の進展を加速させることが期待されています。

国はＡＩ（人工知能）など先端技術の活用により経済発展と社会問題の解決を図る「Society5.0」※２の実現を目指しており、今後は、情報格差の解消や情報セキュリティの確保を図りながら、行政運営のさらなる効率化と住民生活の利便性向上に向け、まちづくりにＩＣＴを積極的に活用していくことが求められています。

※１ 「超高速・大容量」「低遅延」「多数同時接続」の特性を持つ第5世代移動通信システム。

※２ 狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く新たな社会。我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された、仮想空間と現実空間を融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society）をいう。

(5) グローバル化の進展

ＩＣＴの発達や物流システムの発展などにより、海外の成長市場への販路拡大、製造拠点の海外移転、インバウンド消費の取り込み、外国人労働者の受け入れなどの経済面に加え、留学や文化交流など教育・文化面においても人・もの・お金・情報の国際間の流れが活発化しています。

このような状況に対応するためには、まちづくりや企業活動及び次代を担う子どもたちの教育に、グローバルな視点を持って臨む必要があります。

(6) 価値観・ライフスタイルの多様化

人々の価値観やライフスタイルが多様化するなか、固定的な性別役割分担意識の解消、性的少数者（ＬＧＢＴ）への理解、ワークライフバランスの積極的な導入など、一人ひとりの価値観や個性を尊重する意識が高まっています。特に、多様な働き方を受け容れる環境整備は、女性や高齢者の活躍機会を広げることに加え、自然豊かな環境のなかでのワーケーションや二地域居住・移住を促進することにつながることから、積極的な取組が求められます。

(7) 厳しさを増す行財政運営

少子高齢化の進行により、社会保障に係る財政負担の増加が見込まれることに加え、高度経済成長期に集中的に整備された道路、橋りょう、公共施設などの老朽化により、今後、これらの社会資本の維持・管理に係る費用負担の増加も想定されています。こうしたなか、持続可能な行財政運営を推進するためには、社会資本の長寿命化、更新、統廃合を適正かつ計画的に行うとともに、最少の経費で最大の効果を得るべく、効率的な市政運営を進めていく必要があります。

(8) 地域主権の確立と協働の促進

国は、地域のことは地域に住む人が決める地域主権の確立を掲げ、地方自治体においては、地域の実情や住民のニーズを的確に反映させた自立性の高い行財政運営が求められています。

一方、住民のニーズは高度化・多様化しており、今後も厳しい財政状況が続くと見込まれるなかで住民の満足度の高いまちづくりを実現するためには、行政だけで対応することは困難です。

このような状況に対応するため、市民活動団体や事業者などの行政への理解と参加を促すなど、住民と行政の信頼関係に基づく協働のまちづくりが重要となります。



第2節 市民のニーズ

本計画を策定するにあたって、市民の意見を広く反映させるため、市民まちづくりアンケート、市民まちづくりワークショップ、中学生ワークショップ、各種団体ヒアリングを実施しました。

その内容と主な調査結果・意見は次のとおりです。

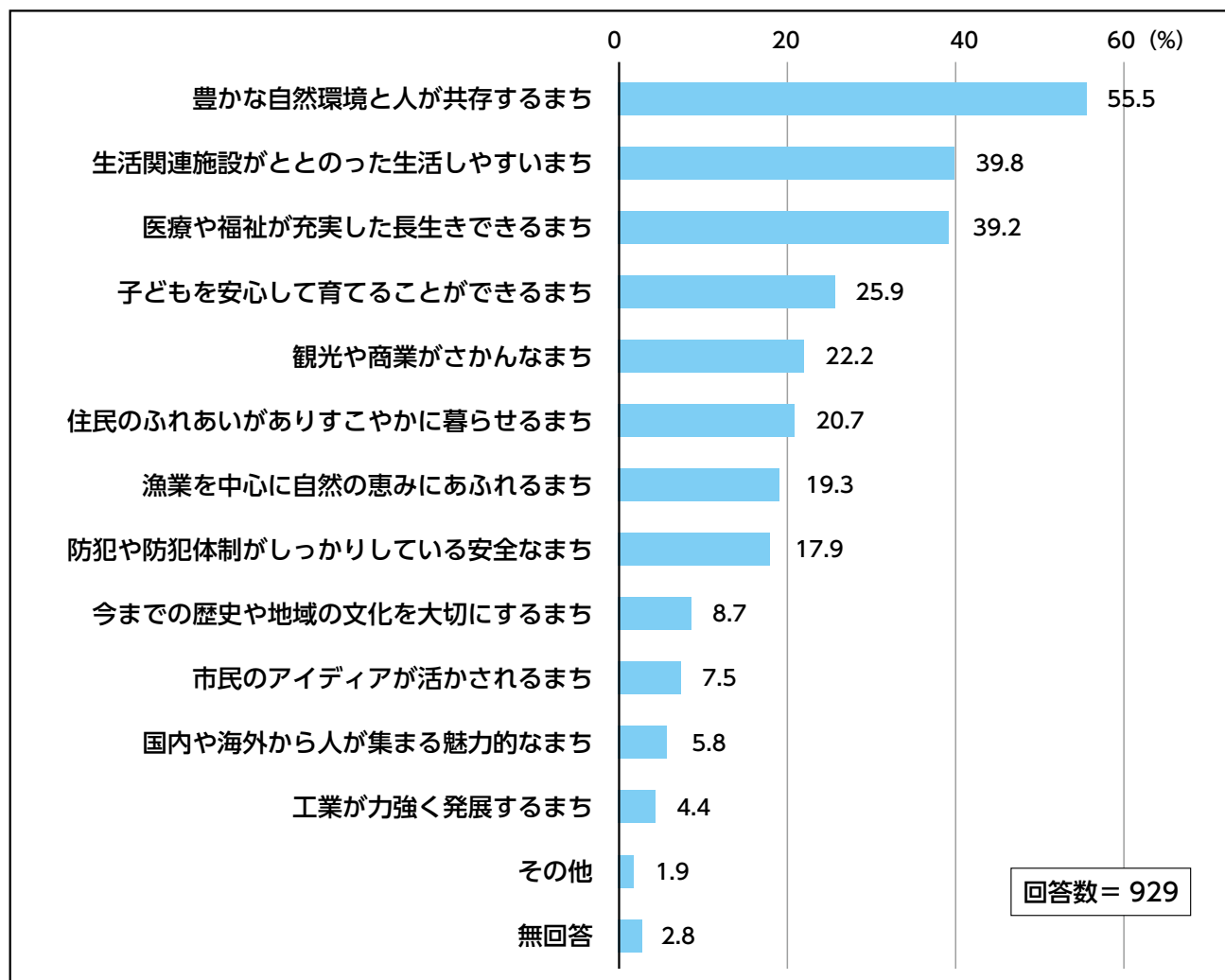
(1) 市民まちづくりアンケート

- 実施時期：令和3年（2021年）6月～7月
- 対象：満18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）
- 回収状況：有効回答数929人、有効回答率46.5%

①希望する勝浦市の将来像

- ▶ 希望する勝浦市の将来像（複数回答）は、「豊かな自然環境と人が共存するまち」（55.5%）と回答した人が最も多く、「生活関連施設がととのった生活しやすいまち」（39.8%）、「医療や福祉が充実した長生きできるまち」（39.2%）の順に続いています。

■希望する勝浦市の将来像（複数回答）



②勝浦市の誇り・宝もの

- ▶ 郷土の誇り・宝もの（複数回答）として「海・海岸」（156 件）と回答した人が最も多く、「朝市」（98 件）、「自然・山・緑」（59 件）の順に続いています。

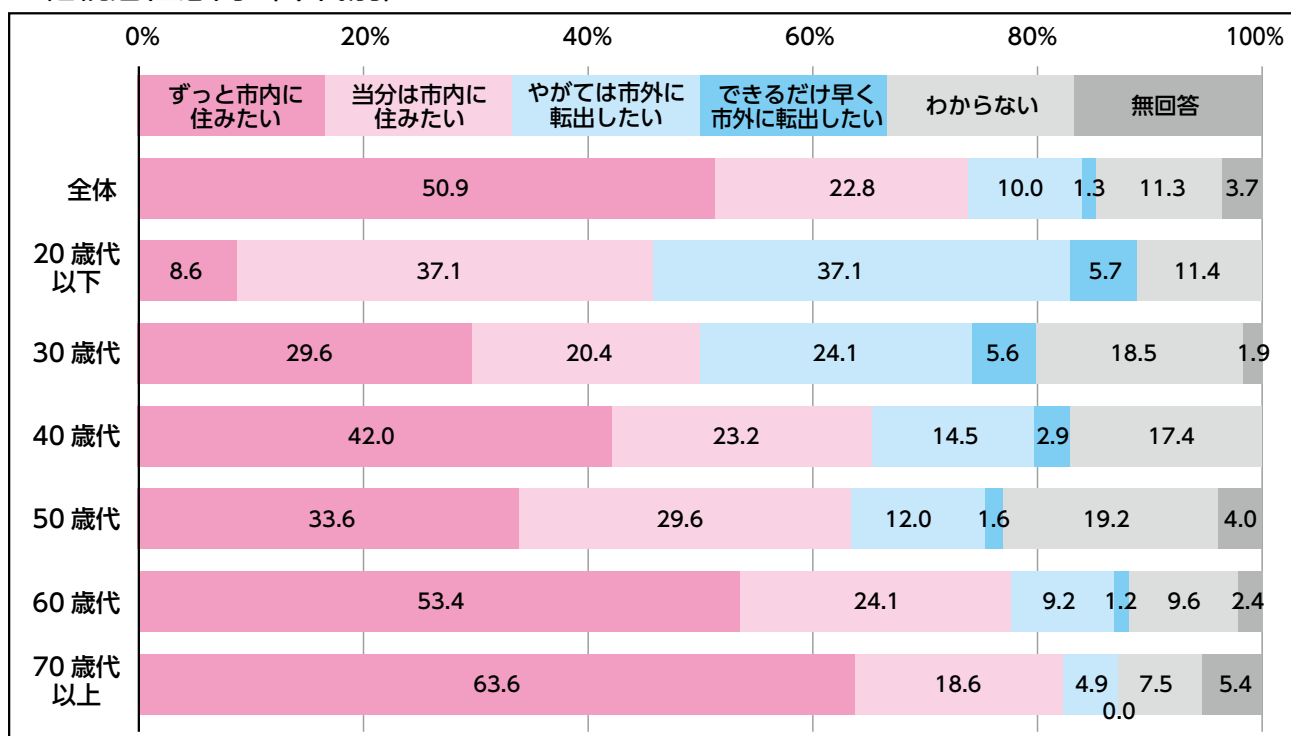
■勝浦市の誇り・宝もの（複数回答）

順 位	回答内容	件 数
1	海・海岸	156
	（うち鵜原理想郷）	4
	（うち守谷海岸）	2
2	朝市	98
3	自然・山・緑	59
4	漁業・漁港	30
5	かつうらビッグひな祭り	28
6	勝浦海中公園	22
7	（ひな祭り除く）祭り	18
8	カツオ	14
9	（カツオ除く）魚介・海の幸	13
10	国際武道大学	8
	タンタンメン	

③継続居住意向

- ▶ 勝浦市への継続居住意向について、全体では「ずっと市内に住みたい」または「当分は市内に住みたい」と回答した人の割合が7割を超えています。
- ▶ 「やがては市外に転出したい」または「できるだけ早く市外に転出したい」と回答した人の割合は全体では約1割にとどまりましたが、同割合を年代別にみると、20歳代以下では約4割、30歳代では約3割に達しています。人口減少と少子化の進行スピードを緩和するためには、若い世代が本市に住み続けたいと思えるまちづくりを早急に進める必要があります。

■継続居住意向（年代別）



④日常生活の満足度

- ▶ 日常生活について、満足度（「満足」＋「やや満足」）が高い項目は、「近所の人の親切さ・人情」が76.7%で最も高く、「防犯」（72.0%）、「騒音・振動・悪臭などの生活環境」（68.6%）の順に続いています。
- ▶ 一方、不満度（「不満」＋「やや不満」）が高い項目は、「バス・鉄道などの公共交通機関」が72.7%で最も高く、「職業・働く場の確保」（70.4%）、「日常の買い物の便利さ」（68.9%）の順に続いています。

■日常生活の満足度

（満足度の高い順）

（単位：％）

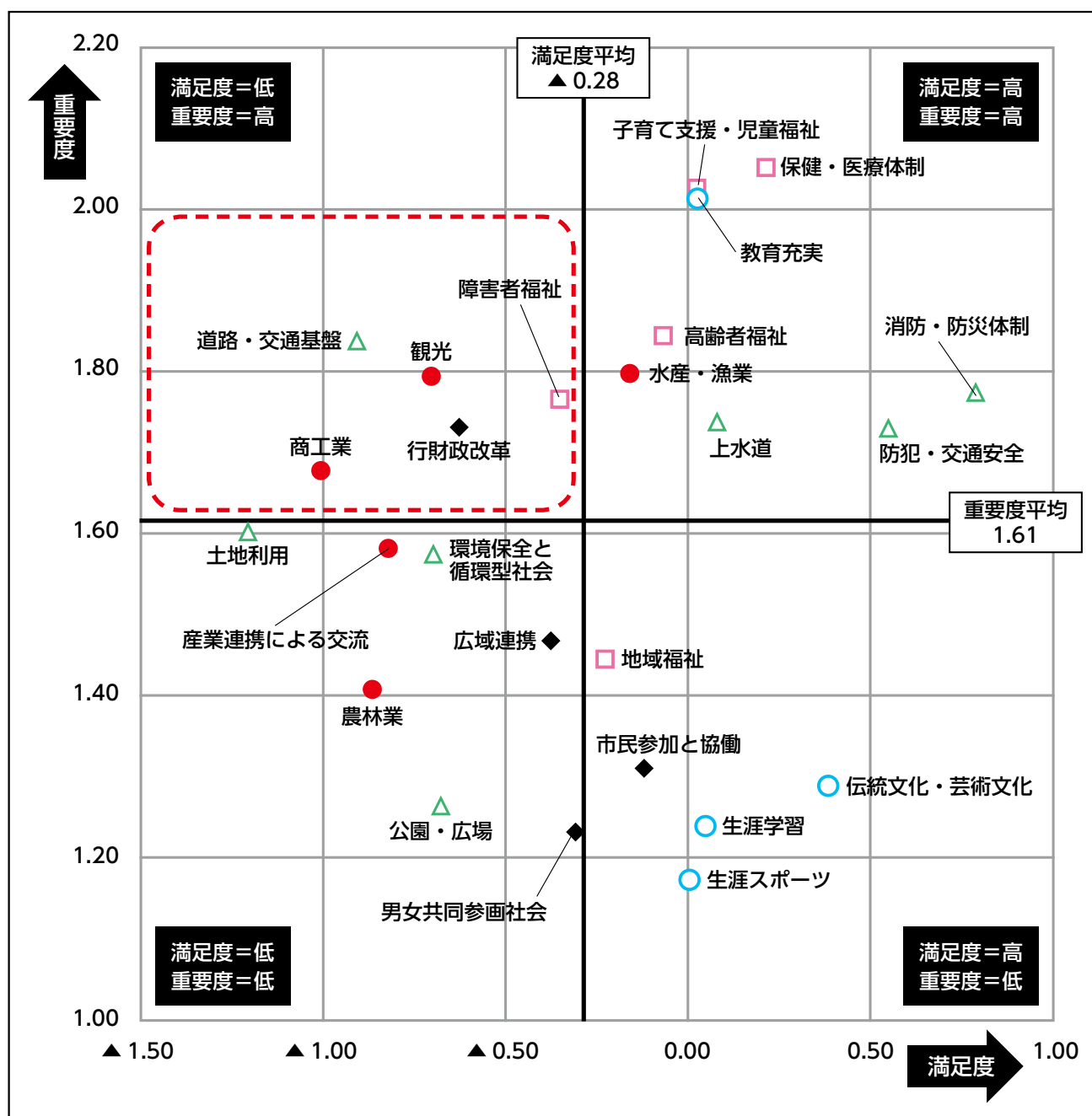
	満足計			不満計			わからない	無回答
		満足	やや満足		やや不満	不満		
近所の人の親切さ・人情	① 76.7	24.2	52.5	13.7	9.6	4.1	6.2	3.3
防犯（犯罪が少なく風紀がよい）	② 72.0	19.1	53.0	17.2	12.8	4.4	6.6	4.2
騒音・振動・悪臭などの生活環境	③ 68.6	22.0	46.6	20.8	16.1	4.6	6.0	4.6
ごみ処理	④ 66.7	21.4	45.3	24.4	17.3	7.1	5.0	3.9
市民検診などの日常の保健活動	⑤ 65.6	16.5	49.1	17.1	13.7	3.4	13.2	4.1
家庭排水・し尿の処理	57.8	16.9	40.9	27.9	17.9	10.0	10.2	4.1
雨水の処理	56.9	16.9	40.0	24.7	18.4	6.2	14.5	3.9
お祭りや地域の親睦活動	53.4	8.8	44.6	26.9	20.0	6.9	15.9	3.8
集会所や公民館などの集会施設	49.5	8.3	41.2	28.8	21.5	7.3	17.2	4.4
病院・医院の整備について	49.3	9.5	39.8	39.5	27.6	11.9	7.0	4.2
新型コロナウイルス感染症への対応 ①感染拡大防止への取組	46.3	11.0	35.3	30.0	21.7	8.3	19.5	4.2
図書館・ホールなどの文化施設	42.8	8.7	34.1	32.3	20.7	11.6	20.7	4.2
国道・県道などの主要道路の整備	42.6	8.7	33.9	47.5	26.2	21.3	5.0	5.0
身近な生活道路の整備	41.4	9.7	31.8	51.5	29.0	22.5	3.3	3.8
新型コロナウイルス感染症への対応 ②医療体制の整備	38.0	7.9	30.1	31.4	21.9	9.6	26.5	4.1
文化・芸術活動を楽しむ環境	36.6	7.3	29.3	29.7	20.9	8.8	28.4	5.3
地震・災害等の防災対策	35.2	5.1	30.1	41.2	29.1	12.2	18.3	5.3
交通安全（歩道・街路灯など）	32.4	5.5	26.9	④ 58.3	35.7	22.6	4.1	5.2
高齢者福祉施設について	29.6	4.8	24.8	40.0	26.7	13.3	26.9	3.4
小中学校の教育	28.5	5.7	22.8	22.6	16.6	6.0	43.1	5.8
生涯学習（各種講座・教室の開催等）	28.4	4.8	23.6	26.7	18.8	7.9	39.8	5.1
日常の買い物の便利さ	26.6	4.3	22.3	③ 68.9	34.8	34.1	1.2	3.3
福祉施設について	26.4	3.9	22.5	36.3	25.5	10.8	32.3	5.1
子育て支援施設について	23.6	3.8	19.8	26.6	18.2	8.4	44.9	5.0
新型コロナウイルス感染症への対応 ④市民生活への経済支援	23.4	5.7	17.7	38.3	23.3	15.1	34.4	3.9
基幹産業としての農林水産業の振興	22.5	3.7	18.8	43.7	27.6	16.1	28.3	5.5
新型コロナウイルス感染症への対応 ③事業者に対する経済支援	21.3	4.6	16.7	29.5	18.7	10.8	45.0	4.2
公園や子どもの遊び場	19.8	2.4	17.4	54.3	29.9	24.3	20.9	5.1
スポーツ・レクリエーション施設	18.7	3.3	15.4	49.2	28.4	20.8	28.1	4.0
公共空間の通信環境（Wi-Fi環境等）	17.4	3.2	14.2	40.5	20.2	20.2	35.3	6.8
暮らしを支える商工業の振興	16.1	2.2	14.0	⑤ 58.1	31.5	26.6	21.0	4.7
バス・鉄道などの公共交通機関	14.6	3.1	11.5	① 72.7	28.1	44.6	8.1	4.6
職業・働く場の確保	9.9	1.8	8.1	② 70.4	25.3	45.1	15.5	4.2
空き家への対応	5.7	0.9	4.8	51.8	24.0	27.8	37.8	4.7

⑤市のまちづくりの満足度・重要度

- ▶ 満足度は高い順に「消防・防災体制の充実」、「防犯・交通安全対策の推進」、「伝統文化の保存と芸術文化の振興」となった一方、「計画的な土地利用の推進」、「商工業の振興」、「道路・交通基盤の整備」の満足度が低くなっています。
- ▶ 重要度は高い順に「保健・医療体制の充実」、「子育て支援・児童福祉の充実」、「学校教育と青少年教育の充実」となっています。
- ▶ 「道路・交通基盤の整備」など、グラフの左上に位置している施策は、重要度が高いにもかかわらず満足度は低く、さらなる取組が期待されています。
(下図内の点線で囲われたゾーン)

■施策の満足度・重要度の相関図

※満足度は「満足」を3点、「やや満足」を1点、「やや不満」を▲1点、「不満」を▲3点、重要度は「重要」を3点、「やや重要」を1点、「あまり重要でない」を▲1点、「重要でない」を▲3点とし、合計点を「どちらともいえない」を除く回答総数で除して指数化しました。



(2) 市民まちづくりワークショップ

○実施時期：令和3年（2021年）8月～12月（全6回）

○対象：公募により選定された市民12名

- ▶ 第1回から第4回までの各回は施策分野別のテーマを設け、各分野における勝浦市の強みと問題点を整理したうえで今後必要な取組の方向性について話し合いました。第5回は「市民と行政との協働」や「SDGsの推進」など分野横断的なテーマについて意見交換を行い、最終回の第6回ではそれまでのワークショップを振り返って意見交換を行いました。
- ▶ 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、第1回から第5回までのワークショップはオンラインで実施しました。
- ▶ 主な意見は次のとおりです。

■第1回～第4回ワークショップの意見

	強み	問題点	取組の方向性
産業・経済	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい自然や朝市など、観光資源が豊富。 ・漁業は県内有数の漁港を有し、大消費地に近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用機会が少ないことから若い世代が流出。 ・後継者難、施設老朽化、鳥獣被害等、1次産業に逆風。 ・観光資源のPR不足。 ・産業間連携が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用した生活支援による就労者の誘致。 ・漁港の機能集約によりその一部を観光利用。 ・市の魅力発信強化。
保健・医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で子どもや高齢者を見守る体制ができています。 ・国際武道大学が市民の健康づくりに貢献。 ・温暖な気候やサークル活動により元気な高齢者が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の移動手段が少ない。 ・老人ホーム施設が不足。 ・保育所サービスが不十分。 ・医療、介護に係る費用が今後財政を圧迫する可能性。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動スーパー等による生活支援の充実。 ・国際武道大学との連携による市民の健康づくり促進。 ・市民ボランティアと連携した地域の支え合い強化。
生活環境・自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会等の地域組織による防災、防犯の取組が機能している。 ・京浜へのアクセスが良好。 ・自然に恵まれ、ワーケーションに適した環境。 	<ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地が多く、大雨など自然災害リスクが増大。 ・高齢者が多く、災害時の避難支援が課題。 ・管理者不在の空き家が増加。 ・海や山への不法投棄。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の要支援者に対する支援マニュアル策定。 ・空き家情報の一元化による空き家の有効活用促進。 ・実効性ある条例制定や監視体制強化など、不法投棄防止策の強化。
教育・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒に対する教員の数が多い。 ・豊かな自然を活用した体験教育が可能。 ・高い競技レベルの国際武道大学が立地。 ・歴史ある寺社や伝統ある祭りが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数が少ないことによる教育機会喪失。（チーム編成の制約など） ・高校不在による若者流出。 ・IT化の後れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を活かし、都会の子どもを受け入れるデュアルスクール導入。 ・国際武道大学と連携したスポーツ教育の充実。 ・豊かな自然環境を活かした環境保全教育の充実。

■第5回ワークショップの意見

①勝浦市で市民と行政が協働で取り組むべきこと

協働で 取り組むべきこと	市民の役割	地域・企業・団体の役割	行政の役割
ひとり暮らし高齢者の見守り	・見守り・声掛け運動への理解と参加	・コミュニティによる声掛け ・デジタル技術の活用（寄り添いロボット等）	・実態とニーズの把握
「DX」※の推進による グリーンスマートシティ実現	・実現への合意形成 ・デジタルリテラシーの向上	・各取組分野への投資	・投資企業誘致 ・実証モデル都市としての指定獲得
空き家の活用	・空き家バンクへの登録	・不動産業者、建築業者、行政の連携によるワンストップでの良好な物件提供	
ごみゼロ運動の推進	・ごみ拾いボランティア	・団体や地区の調整	・活動環境の整備

※デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）の略。デジタル技術を活用することにより既存の枠組みに変革をもたらし、ビジネスや生活をより良い方向に変化させること。

②勝浦市におけるSDGsの推進のあり方

優先すべきゴール	具体的な取組
質の高い教育をみんなに	地元の歴史・文化への理解を広める生涯学習活動
エネルギーをみんなにそしてクリーンに	海・黒潮を活かした洋上風力発電と海流発電によるエネルギーの地産地消
産業と技術革新の基盤をつくろう	廃校を活用し、デジタル改革・働き方改革で地方移転可能な企業を誘致
住み続けられるまちづくりを	市民・行政の協働により、観光面からも必要な道路の草刈り
住み続けられるまちづくりを	人口減少を止めるための本気の議論・立案
気候変動に具体的な対策を	温暖化進行の危機の啓蒙／落ち葉再利用などによるごみ減量
海の豊かさを守ろう	合成洗剤に替わり天然石鹸を使用⇒アワビの奇形が消えた

(3) 中学生ワークショップ

- 実施時期：令和3年（2021年）10月～11月（全3回）
- 対象：勝浦中学校 第2学年の生徒 97名

- ▶ 5～6人のグループに分かれて、「勝浦市の魅力と課題」、「私の望む勝浦市の将来像」、「市長になったら取り組みたいこと」をテーマに話し合いました。
- ▶ 主な意見は次のとおりです。

①勝浦市の魅力

- ◆ 最も多くの生徒が勝浦市の魅力として挙げたのは「海」に関することで、「海」、「きれいな海」、「海がみえる」、「海が近い」などの意見がありました。
- ◆ 次いで多かったのは「食」に関することで、「海の幸」、「勝浦タンタンメン」などの意見がありました。
- ◆ このほか、「自然」、「人（人がやさしいなど）」、「祭り・イベント」を魅力として挙げる意見も数多くみられました。

②勝浦市の課題

- ◆ 最も多くの生徒が勝浦市の問題点として指摘した意見は「買い物する場所・店が少ない」でした。この点に関して、特に「ショッピングモールがない」ことを残念な点とした意見が目立ちました。
- ◆ 次いで多かったのは「電車やバスの本数の少なさ」でした。
- ◆ このほか、「遊べる場所・運動できる場所が少ない」、「街灯が少ない（夜道が暗い）」、「少子高齢化の進行」、「ゴミ捨てマナーが悪い」といった意見も多くきかれました。

③私の望む勝浦市の将来像

- ◆ 個人単位の意見として最も多かった意見は「買い物できる場所が多いまち」など、買い物の利便性を望む意見でした。
- ◆ 次いで多かったのは「遊べる場所・運動できる場所」の充実を望む意見でした。
- ◆ このほか、海をはじめとした「豊かな自然」や「交通の便の良さ」を望む意見も多くきかれました。
- ◆ グループで話し合っまとめたグループとして望む将来像も、「買い物・店舗」の充実に関する意見のほか「遊べる場所・運動できる場所」の充実や「豊かな自然」、「交通の便の良さ」に関する意見が多い結果となりました。

④市長になったら取り組みたいこと

- ◆ 市長になったら取り組みたいことを、【ステップ1：市長として大切にしたい勝浦市の魅力】、【ステップ2：その魅力を活かして目指すまちの姿】、【ステップ3：目指すまちの姿の実現に向けた具体的な取組】、という3段階で考えてみました。
- ◆ 「大切にしたい勝浦市の魅力」としては、「海」が最も多く、次いで「食」、「自然」の順となりました。
- ◆ 「目指すまちの姿」について、「海」や「自然」を大切にしたい魅力に選んだ生徒は「人が集まる・にぎわいのあるまち」と「自然豊かなまち」とする意見が多く、「食」を魅力に選んだ生徒は「人が集まる・にぎわいのあるまち」とする意見が目立ちました。
- ◆ 「目指すまちの姿に向けた取組」として、「人が集まる・にぎわいのあるまち」を目指したいとした生徒は「情報発信・プロモーション」に取り組みたいとの意見が多く、「自然豊かなまち」を目指したいとした生徒は「美化・環境保全」に取り組みたいとの意見が目立ちました。

(4) 団体ヒアリング

- 実施時期：令和3年（2021年）11月～12月
○調査対象：経済団体、民生関連団体など市内の14団体

- ▶ 産業、福祉、防災、教育など、各施策分野について、市内の関係団体から各分野の現状・課題・今後必要な施策等を伺いました。
- ▶ 主な意見は次のとおりです。

■各団体の主な意見（○は強みや取組に関する意見、▲は問題点に関する意見）

産業	農業	▲農業従事者の高齢化、後継者不足により離農者が増加。 ▲有害鳥獣の被害が発生。 ○いすみ米の販路拡大や直売所での販売強化を推進。
	漁業	▲以前は豊富に獲れたカツオ、スルメイカ、サバが近年は漁獲不振。 ▲食習慣の変化により魚の需要が減少傾向。コロナ禍の会食自粛も追い打ち。 ▲燃油高騰により採算が悪化。 ▲漁港施設の老朽化が進行。 ▲後継者確保が課題。 ○アワビなど育てる漁業に取り組んでいる。 ○イベント等を活用したPRやブランド化に取り組んでいる。 ○勝浦産キンメダイは全国から注文が入るなど評価が高い。近隣市町の漁業者間で操業時間・期間を制限する規約を定め、資源管理に努めている。
	商工業	▲人口減少により市内商品販売額は減少傾向。 ▲各事業者によるインターネットを活用したPRが不十分。 ○キャッシュレス化を推進。 ○「かつうら創業塾」にて起業・創業支援に取り組んでいる。
	観光	▲通年で観光客を呼び込めるイベント等の企画が必要。 ▲朝市は出店者の高齢化が進み平日の出店者が減少傾向。 ▲Wi-Fi環境や案内板など、観光客を受け入れるハード整備が不十分。 ○「かつうらマルシェ」など気軽に出店できる機会の提供により朝市の活性化を図っている。 ○観光協会HPやSNSサイトの充実を通じ、情報発信の強化を図っている。
医療福祉		▲看護師を含む医療従事者の確保が課題。 ▲各医療機関が個別健診を実施しているが、受診率は低調。 ▲高齢化の進行により、認知症等の高齢者医療への対応増加が見込まれる。 ▲要介護者に対する介護ヘルパーのサービス確保のためには、要支援者の生活支援に対し、ボランティアなどの地域の支援が必要。 ○国際武道大学と連携し、市民の健康づくり「健康ハツラツ教室」を開催。
防災		▲消防団の団員数が減少。団員の平均年齢が上昇傾向。 ▲団員確保のための待遇改善が必要。 ▲自主防災会も若い人材が不足。消防団との連携が必要。
文化スポーツ教育		▲少子化により子どもの体験活動や交流機会が減少。 ▲小中学生の芸術鑑賞機会が少ない。 ▲公共施設の再利用によるスポーツ施設充実が課題。 ○小中学校、スポーツ協会、国際武道大学の連携により、各種スポーツ大会やスポーツ教室が円滑に運営されている。

第3節 まちづくりの主要課題

時代の潮流や市民のニーズを踏まえ、まちづくりに向けた主要課題を次のとおり整理しました。

課題 1

人口減少・少子化への対策

本市の人口は昭和 30 年代以降ほぼ一貫して減少しており、直近の国勢調査（令和 2 年（2020 年））によると県内にある 37 市のなかで最も少ない 16,927 人となっています。また、前回の国勢調査（平成 27 年（2015 年））からの減少率は 12.1%で、これは県内の 37 市のなかで最も高い減少率です。こうした人口減少の一因となっているのが若い世代の市外転出です。

市民まちづくりアンケートでは、「やがては転出したい」または「できるだけ早く転出したい」と回答した人の割合が全体では約 1 割にとどまった一方、年代別にみると 20 歳代以下では約 4 割、30 歳代では約 3 割に達しています。本市の人口減少傾向は今後も続く見込みですが、人口の減少は消費市場の縮小や労働力不足、地域コミュニティの担い手不足など、経済・社会の活力を衰退させる要因となることから、雇用機会の確保、婚活支援、出産・子育てしやすい環境整備や学校教育の充実等により若い世代の流出や少子化進行に歯止めをかけるとともに、豊かな自然環境など本市の魅力を活かした移住促進を進めていくことが必要となります。併せて、人口規模に応じた社会資本のあり方を検討していくことも求められます。

課題 2

健康づくり・福祉の充実

本市の人口に占める 65 歳以上の割合は 43.4%と、千葉県（27.6%）や全国（28.7%）を大きく上回り、県内 37 市のなかでは南房総市に次いで 2 番目に高い割合となっています。他市に先駆けて高齢化が進行している本市では、要支援・要介護認定者の増加やひとり暮らし高齢者世帯の増加が今後一層顕著となることが見込まれますが、現時点においても市民まちづくりアンケートでは回答者の 8 割が高齢期の生活に「不安を感じる」と回答しています。また、市内の障がい者を対象に実施したアンケートでは、「経済的支援」や「医療やリハビリの充実」など、多様な福祉サービスを望む意見が目立っています。

誰もが安心していきいきと暮らせるまちづくりに向け、地域の様々な主体が支え合いの意識を持って連携し、保健・医療・介護・福祉の各種サービス提供体制の充実を図るとともに、福祉に関わる人的・物的資源に限りがあるなか、本市の資源を活用した健康づくり・生きがいづくりの取組を充実し、介護予防を推進することが求められます。

課題
3

安全・安全な暮らしの実現

台風や集中豪雨による風水害がこれまでの想定を上回る規模で発生し、また、大規模地震が高い確率で発生することが予想されるなか、自然災害に対する備えの強化が求められています。特に本市は山地が市域の3分の2を占めていることから土砂災害の危険性がある箇所が少なくなく、さらに、房総沖や南海トラフ沿いの巨大地震発生による建物倒壊や津波等の被害が想定されており、安全・安心な暮らしを守るうえで自然災害への対策強化は喫緊の課題といえます。また、高齢者を狙った詐欺や悪質な交通事故がたびたび報じられるなど、日常生活はその安心を脅かす多様なリスクと隣り合わせです。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大は国・県・市町村の各レベルで現代社会の様々な課題を浮き彫りにしました。

こうした災害や事件等に対し、生活への被害・影響を最小限にとどめるため、ハード面の計画的な整備を進めるとともに、「自助」、「共助」、「公助」の考えのもと、各主体による備えの充実と行政の危機管理体制強化を図り、地域における安全・安心なまちづくりへの総合的な取組の推進が必要です。

課題
4

地域経済の活性化

市民まちづくりアンケートにおける日常生活満足度では「職業・働く場の確保」が全34項目中で2番目に不満度（「やや不満」または「不満」と回答した人の割合）が高い結果でした。

多くの地方都市では大学進学タイミングに重なる10代後半の人口が大幅な転出超過となるのに対し、本市では国際武道大学に入学する市外からの転入者が多いことから大幅な転入超過となっていますが、上記アンケート結果を裏付けるように、そのほとんどが卒業とともに就職先を求めて再び市外に転出しているのが現状です。また、生産年齢人口の減少を背景とした地域経済の担い手不足や事業経営の後継者不足が顕在化しており、市内の事業所数は平成21年（2009年）の1,333事業所から平成28年（2016年）の1,123事業所へと15%の減少となっています。

若い世代の転出に歯止めをかけ、活力に満ちた持続可能な社会・経済を構築するためには、働き方の多様化が進む流れを捉え、サテライトオフィスを含む企業誘致や高齢者等の就労促進等の施策に取り組むことで地域に魅力的な雇用機会を充実させるとともに、既存事業者の経営や起業・創業に対するきめ細かな支援の充実と各産業間の連携促進により、市内の産業全体の活性化を図ることが求められます。

市民まちづくりアンケートにおいて、希望するまちの将来像として最も多かった回答が「豊かな自然環境と人が共存するまち」でした。さらに、「勝浦市の誇り・宝もの」として最も多かった回答は「海・海岸」でした。市民にとって大切な自然及びその自然が織りなす美しい景観は、多くの観光客や移住希望者を惹き付ける魅力ある地域資源であり、この自然環境を次代に引き継ぐため、環境保全活動やごみ減量・再資源化など循環型社会の実現に向けた取組や自然景観の整備に継続的に取り組んでいくことが重要です。また、世界的に推進されているSDGsを踏まえ、市民・事業者・行政がそれぞれ高い関心と意識を持って自然を守る取組に参加することが必要となります。

一方、市民まちづくりアンケートにおける日常生活満足度では「バス・鉄道などの公共交通機関」の満足度の低さが目立ち、中学生ワークショップにおいても多くの生徒から電車・バスの利便性向上を望む意見がきかれました。近隣自治体を含む地域の人口減少を背景に電車やバスの運行本数を維持すること自体の困難さが増すなか、日常生活における移動の利便性確保や観光をはじめとする経済活性化の観点に立った道路網と公共交通機関の継続的な整備が求められます。また、上水道関連施設をはじめとした生活基盤を支える様々なインフラは老朽化が進んでおり、こうした公共的社会資本について中長期的な計画のもと、適切な維持・更新を図るとともに、市民や本市を訪れる人にとって潤いのある快適な都市空間を提供するための景観整備に市民、行政が協力して取り組んでいくことが必要です。



課題
6

生きがいを持てる社会の形成

人生 100 年時代を迎え、また、人々の価値観やライフスタイルの多様化が進んでいることから、年齢や障がいの有無に関わらず学びたいことを学んだり、好きなスポーツや芸術を楽しむなど、誰もが生きがいを持って心豊かに暮らすことができるまちづくりが必要です。

特にスポーツ分野については、市民まちづくりワークショップのなかで、競技指導や市民のあいだにおけるスポーツ機運の高揚といった面で国際武道大学の貢献を望む意見がきかれ、スポーツ・健康づくりにおける同大との連携をこれまで以上に強化していくことが求められています。

また、中学生ワークショップで多くの生徒が地域の魅力として挙げた祭りをはじめ、本市には先人が大切に受け継いできた歴史のある文化財・伝統文化が豊富に存在しており、こうした文化に触れる機会を広く提供し、市民の郷土への誇りや愛着を醸成することが求められます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は芸術文化活動やスポーツ活動に様々な制約をもたらすと同時に、こうした活動を通じた交流の重要性を再認識する契機となりました。オンラインなど多様な手段の活用や、最新の知見を踏まえた各種の感染症対策を講じることにより、新しい生活様式に対応した活動環境の整備を進める必要があります。

課題
7

健全な行財政運営と協働促進

行財政運営は、最小の経費で最大の効果をあげることが基本であり、日々変化する行政課題を的確に捉え、柔軟かつ迅速に対応し、効果的・効率的な行政サービスを安定的に提供することが必要です。このため、ICT技術の積極的な導入や、市の所有する空き公共施設等の有効的な活用など、従来の価値観や行政手法に捉われず、持続可能な行財政基盤の構築に向けてさらなる行財政改革に取り組んでいくことが必要となります。また、人口減少をはじめとした市域を越えた広域的な課題については、近隣の自治体等と密接な連携を図るなど、柔軟な対応が求められます。

一方、市民の価値観やライフスタイルの多様化にともない、行政に期待される役割はこれまで以上に多岐にわたっています。財政状況の先行きは不透明さを増しており、将来にわたってより多くの市民ニーズに応えていくためには、市民や各種団体のほか、大学や企業などが市政やまちづくりに参加しやすい環境・仕組みを整えることが必要です。

とりわけ市民と行政とが目標を共有し共にまちづくりを進めていくためには、行政情報をよりわかりやすく市民に伝えること、及び市民と行政の意思疎通を図る機会を充実することにより、市民と行政との協働関係をより強固にしていくことが求められます。

